

福成会の  
ちよつと素敵な話

「日々是好日あれ」

No. 10



障害者施設ってどんなところだろう？

不安を持ちながらも初めてこの業界の門を開いたのは五年前のことです。

それまでの私は福祉業界で働く経験がなく、ましてや障害者施設となるとハードルを高く感じ、福祉業界の扉を叩くまでには約二年の期間を要しました。

面接の日、意を決し、面接会場の事業所を訪れました。

そこで見た光景は今でも忘れることができせん。玄関に入るや否や、

「こんにちは」と笑顔で出迎えてくれた利用者さんや歌に合わせてダンスを踊っている利用者さんがいました。皆さんの明るさに触れ、それまでの私の先入観は建物の中に入ると一変しました。

私が福成会の求人を見つけて応募したことにはあるきっかけがありました。

十一年前：

「色んなことが重なって、身動きがとれなくなった。」

そうつぶやいた次男は小学三年生の三学期から自分のクラスに入れなくなり、四年生からは別教室に通い、中学の三年間はほぼ不登校となりました。

高校は通信高校に通って一年生で辞めました。

次男が言うように二年間程の期間で確かに色んなことが重なっていました。

長女の難病、長男の非行、家族の争い、私の癌入院と立て続けに大変なことが起こりました。

次男は小学六年生の時、学習障害と診断され、療育手帳を取得しました。数年間は親としてさまざまな価値観を覆される出来事が続き、次男と泣き笑いの日々を送りながら現状を受け入れるまでに数年を要しました。

面接での私は、障害があることは社会で生き辛いことだと次男を通じて感じたこと。自分の価値観を変えることで相手が変わったこと。親の自分の方が正しいと考えを押し付けていたことを気付かせてくれた次男に感謝していることなどを伝えました。

話を終えた私に面接官は生活支援員として働かないかと声をかけてくれました。

そして、福成会に入職し、それからは無我夢中でした。

先輩に指導してもらい、二年が過ぎた頃に資格取得に挑戦しようと思いましたが、三年目に社会福祉主事任用から始まり、四年目から介護福祉士の勉強を始めて今年一月に資格を取得することができました。毎月の資格取得学習会にはできるだけ参加し、上司に的確なアドバイスをもらったお陰で合格できたと感謝しております。

ようやく入社五年目にして、資格を持たない私に入職のきっかけをくれた部長に介護福祉士に合格した報告をすることができました。

福祉へのきっかけをくれた次男は現在大学入試を目指し、猛勉強をしています。

毎日の利用者さんとのコミュニケーションも、暖かい周りのスタッフにも、日々感謝しております。ありがとうございます。